

Y1-03

東日本大震災時における新設部門本部 付事務業務内容報告

石巻赤十字病院 新設部門本部

狩野 幹子、續 智美、山地さやか、
佐々木 功、石井 正

2011年3月11日14時46分、M9の地震が発生。5分後に災害医療対策本部が立ち上がり、災害レベル3（全職員で長期間にわたり対応する状況。当院における最高レベル）が宣言され、新設部門本部（以下、本部）が立ち上がった。通信手段が全て絶たれた。私たちは、本部主事として業務に携わり、一日30チーム前後の救護班の受け付け対応に追われた。今回の災害は大規模であったため、業務量も多大で多忙を極めた。3月15日から日赤救護班付主事による事務支援が開始されたため、石巻赤十字病院付主事一人当たりの業務量は減少した。3月16日から本社及び支部より本部付主事の継続的派遣が開始され、石巻赤十字病院本部付主事の業務はジェネラルマネージャーの秘書的業務に特化された。本部の事務業務に携わった者として、具体的な業務内容及びその経過について報告する。

Y1-04

もうひとつの最前線～災害時の院内対応における事務職員の役割

石巻赤十字病院 医事課 / 診療支援事務課

佐々木 功、今村 正敏、津崎 吾郎、
成澤 千代、佐藤 秀憲、大森 幹雄

災害医療における最前線といった場合、一般的には被災地に出向いた救護班や病院の救急部門などを指し、その担い手は言うまでもなく医師をはじめとする医療職である。しかしこのたびの震災において、当院では100名を超える事務職員が、トリアージエリアでの主事業務、玄関前での被災者の整理・誘導、帰宅困難者の対応、安否・受診情報の提供など、様々な場面で被災者と向き合い、やはり最前線で献身的に活動した。ここでは東日本大震災において当院事務職員が担った役割と今後の課題について報告する。